令和7年４月３日

# 令和７年度　学校経営計画

武蔵村山市立第五中学校
校長　大野　博史

**五中校区の教育目標**

**○　確かな学力と豊かな心を育み、自信と誇りをもって21世紀を逞しく生き抜く子供の育成**

**本校の教育目標**

**○　正しく判断でき実行できる生徒（賢く）**
**◎　互いに助け合い、思いやりのある生徒（優しく）**
**○　身心をきたえ何事もやり通す生徒（たくましく）**

## 1　はじめに

学校は、**「社会に貢献できる」人材を育成する**という社会的責任を担っています。その責任を果たすためには、**「正義の通る集団」の育成**が不可欠です。民主的で自治的な集団を育成し、その集団の中で「社会に貢献できる」人材を育成することを目的に個人の資質・能力を最大限に伸ばすことが学校の社会的責任を果たすことだと考えます。

本校は、武蔵村山市の西端に位置し、本市の面積の約4割を占める広い学区域をもつ大規模な中学校です。令和2年に創立４０周年を迎えました。**地域と保護者の皆さまの教育の熱心さに支えられて地域とともに発展してきた中学校です。**今年度も、保護者・地域とより一層連携して教育活動をすすめてまいります。生徒と教師との温かい人間関係を築き、生徒一人一人の可能性を伸ばし、生徒にとって有意義な3年間になるよう、学校経営を実践していきます。

## 2　教育ビジョン

**【目指す特色ある学校像】**

**生命尊重や思いやりの心を大切にし、仲間とともに学び成長することができる学校**

（1）生徒一人一人が**学力と体力の向上**に主体的に取り組み、豊かな個性と能力の伸長を図る。
（2）仲間との**よりよい人間関係や集団生活**を大切にし、豊かな心と社会性を育む。
（3）**地域を知り、地域に貢献する活動**を通して地域や社会の一員として生きていく自覚を高める。

**【目指す生徒像】**

（1）正しく判断でき実行できる生徒（賢く）
（2）互いに助け合い、思いやりのある生徒（優しく）
（3）身心をきたえ何事もやり通す生徒（たくましく）

**【目指す教師像】**

（1）**社会に貢献できる人材の育成**に尽力する教師
（2）本校の課題を理解し、その解決のために**組織の一員として努力する**教師
（3）生徒理解力や授業力等の**教師としての資質・能力の向上を常に目指す**教師

## 3　学校経営の基本姿勢

（1）学校は公教育機関として、国・都・市の基本方針に従うとともに、**法令に従い**、全教職員が一つになって**組織的**に取り組む姿勢が何より必要である。そして、一人一人の教職員が強みを発揮してこそ最大の組織力が生まれる。

（2）学校は、一人一人の生徒が将来に向けて自己を鍛え、**社会に貢献できる人材**となるよう成長させていく使命がある。そのために、教職員は全生徒を一人の人間として**温かく**理解するとともに、社会に通用する人間を育てるべく時には**厳しく**指導を行う。

（3）保護者・地域からの信頼は、生徒の健全な成長をもって生まれる。生徒を慈しむ保護者の期待と、生徒に社会的存在としての場を提供する地域社会の期待、それらの期待に応えるべく、教職員が**社会的責任**を自覚し**役割**を果たすことが必要である。

## 4　中期的目標

保護者・地域から信頼される学校は、生徒の正しい成長を以って生まれる。これらのことを念頭に置いて以下を中期的目標とする。

（1）第1年次の重点

ア　基本的生活習慣と**基礎的・基本的な学力を身に付け**、主体的に学習・生活できる力を育てる。

イ　**自他を大切にし、自ら進んで挨拶を交わし、好ましい人間関係を構築**できる力を育てる。

（2）第２年次の重点

ア　学習・生活において**主体性・自主性を発揮させ、学校の中心として活動できる力**を育てる。

イ　**地域を知り、地域の人々と触れ合う**五中フェスティバルや職場体験を通して、望ましい職業観と**地域を大切にする態度**を育てる。

（3）第三年次の重点

ア　将来の夢や目標に向かって、**自らの進路を主体的に切り拓いていく力**を育てる。

イ　国際理解やSDGsについて学び、地域の一員として「**持続可能なまちづくり**」について考えさせ、共生社会の中で、**地域や社会に貢献する**態度を育てる。

## 5　本年度の目標

（1）主体的な学習・生活のために

ア「学習計画表」を活用し、**家庭と連携して家庭学習習慣を定着**させ、学習意欲の高い集団を育てる。

イ　**朝読書、新聞（NIE）や朝学習を行う。**また、ｅライブラリ等、一人１台端末を積極的に活用し、基礎・基本の定着を図る。

ウ　漢字検定、数学検定、ALTを活用した英語検定の**受検を奨励**し、自己実現を通して学習意欲を高める。

エ　生徒会、学校行事等における生徒の**主体的活動を推進**し、向上心の高い集団を育てる。

オ　生徒会活動、学校行事等において、校区小学校、高等学校と連携した**ボランティア活動**に積極的に取り組む。

（2）学力と体力の向上のために

ア　**授業内で小テストや復習テスト等の反復学習を定期的に実施**し、基本的な知識・技能の習得を図る。

イ　**各教科で一人１台端末を有効活用**し、主体的に取り組む態度と思考・判断・表現力を育てる。

ウ　言語活動や学び合い学習等の対話的活動を通して、コミュニケーション能力や言語能力を育成する。

エ　地域未来塾や補習教室を活用し、個に応じた指導を充実させ、学力向上を目指す。

オ　保健体育科の授業で補強運動や持久走に計画的、継続的に取り組み、基礎体力の向上を図る。

（3）豊かな心と社会性を育むために

ア　**市の研究推進校**として、各学年で人権課題（子供、高齢者、障がい者、外国人）を取り上げ、**生命尊重と自他を大切にする心**を育てる。

イ　教職員の研修を深め、**いじめ防止対策委員会を中心にいじめの未然防止、早期発見、早期対応を全校体制で**行う。

ウ　講師を招聘し、校内研究を推進して研修を深め、**いじめ防止、生命尊重、思いやり、感謝の心**を育成し、考え議論する道徳授業を実践する。地域を知り、地域の人々と触れ合う職場体験や五中フェスティバル、プロから学ぶ会を実施し、地域を知り、地域を大切にする「**まちづくり学習**」を行う。また、SDGsや共生社会について考えさせ、「**持続可能なまちづくりの学習**」を推進する。

エ　特別支援コーディネーターや不登校巡回教員を中心に、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、巡回心理士を活用し、特別支援教室、関係機関の連携を密にして、不登校対応等の**教育相談体制を充実**させる。

オ　三者面談を年2回実施して生徒の実態を把握し、家庭と連携した学習指導、生徒指導を充実させる。

カ　学校便り、ホームページ、X、連絡メール等による情報発信や授業参観を通して教育活動を公開する。

## 6　小中一貫に向けた方策

（1）校区合同研修会を通して、**授業力の向上を図るとともに交流授業や出前授業を実施**する。また、**総合的な学習の時間（まちづくり学習）**、生活指導、特別支援教育の連携を強化し、小中一貫教育を推進する。

（2）人権尊重教育を推進し、**校区の小学校、高等学校の児童会・生徒会と連携して、「五中サミット」を開催**し、**いじめ防止**に取り組む。

## 7　年度末チェックポイント

（1）朝読書の確実な実施と図書室の利用を増やし、**本を一人5冊以上読んだ生徒の割合50%以上**を目指す。

（2）基礎・基本の定着と主体的な学習意欲を促し、卒業までに**漢検、英検、数検を合わせた取得率50%以上**を目指す。

（3）**誰にでも自らすすんで挨拶のできる生徒の割合80%以上**を目指す。

（4）教員のICT機器活用能力を向上させ、**全教員が一人1台端末等を有効活用した授業を実践**する。